

単元名

伝わりやすい組み立てを考えて書こう
「リーフレットでほうこく」

第4学年

1 単元の目標

社会科見学で学んだ事について、自分の伝えたいことをリーフレットにまとめ、書くことができる。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(1)ウ)	① 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をついたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)	① 積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。 (B(2)ア)

3 指導と評価の計画（全10時間）

時間	学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1. 学習活動の見通しをもつ ・リーフレットとはどのようなものか、実物を通して理解する。 ・作成に必要な作業について理解する。	○ C 子どもが安心して、進んで取り組める授業 ・ルーブリック評価で個々に応じた目指すゴールを共有		①(発言・ノート)
2	2. 学習計画を立てる。 ・リーフレットづくりにかかわるルーブリック評価を確認する。 ・リーフレット下書き完成までの学習計画や学習形態を児童自身で考えていく。			
3 4本時 5 6	3. リーフレット下書き作業 ①メモづくり ②メモから文章づくり ③リーフレットの構成の検討④追加の調べ活動 毎時間の流れ：目標確認→作業→みんなのまとめ→振り返り→学習計画の修正	①(下書き)	①(下書き)	①(学習計画表・振り返り) ○ A 子どもが「自分たちで学び取る」授業 ・レギュレイトフォームで自ら学習目標・学ぶ方法や手順の計画
7	4. 途中振り返り・下書きの構成の確認 他のグループへのアドバイスをする。	①(発言)	(発言)	
8 9	5. 本番書きをする。	①(本番書き)	①(本番書き)	①(学習計画表)
10	6. 学級で読み合い、友達の工夫について感想を貼り合う。	①(感想メモ)		①(振り返り)

4 本時案（4／10）

(1) 本時の目標

- ・見学メモを見ながら、句読点を使い正しい表現で文章を書くことができる。（知識及び技能）
- ・伝えたいことの内容に合わせて、段落をつくっている。（思考力、判断力、表現力等）
- ・自分の伝えたいことに合わせて、絵や図を使いながらリーフレットの構成を考えようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 本時の展開

時	○学習活動 ・児童の反応	◇留意点 ☆評価
導入	○前時までの振り返りと課題の確認をする。 ※本時の課題：読みやすいリーフレットにするには？ ○リーフレットづくりのルーズリック評価と、前時にみんなが発見したリーフレットづくりのポイントを確認する。 ＜ルーズリックの段階＞ AA：パパパ・パーフェクト A：グ・グレイト B：グッド C：レベルアップ ・今日は、パパパ・パーフェクトを目指して頑張ろう。	◇わかりやすい言い方として教科書の「大事な言い方」を示す。 ・○○の図は～ ・○○によると～ ・～そうです。 ・たとえば～ ・○○から～わかります。 ◇相談をしながら少しでも良い内容・構成にしていこう確認する。
展開	○事前に立てておいた本時の目標・計画をレギュレイトシートで確認する。 ・今日は同じ構成を考える作業をする友達と一緒に、リーフレットの割り付けを完成させよう。 ○必要に応じてグループを作りながら、リーフレットの下書きづくりを進めていく。 ①メモづくりを進める児童 ・同じ見学グループの友達とCanvaの付箋機能を共有して作業をしていこう。 ②文章づくりを進める児童 ・「分かりやすい言い方」を入れられるように頑張ろう。 ・友達と共有をかけながら、協力して文章をつくろうかな。 ③見学したことをまとめたり、追加で調べたりする児童 ・社会科の資料集や教科書は活用できないかな。 ④リーフレットの構成を考える児童 ・ルーズリックを見ながら、構成を考えてみよう。 ・文章と絵や図がバラバラにならないようにするには・・・ ○本時の作業を通して発見したリーフレットづくりの見方考え方をまとめる。	◇前時に作成した目標や計画を確認させ、見通しをもたせる。 ◇ICTを活用するかどうか等、学び方については活動の内容に応じて、児童に自己決定させていく。 ◇教師は、児童の学習状況を把握しながら、考えをつなぐ役割をしていく。 ☆見学メモを見ながら、句読点を使い正しい表現で文章を書くことができる。（知識・技能） ☆伝えたいことの内容に合わせて、段落をつくっている。（思考・判断・表現） ☆自分の伝えたいことに合わせて、絵や図を使いながらリーフレットの構成を考えようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）
終末	○みんなが発見したリーフレットづくりの見方・考え方を交流し、まとめていく。 ・レイアウトは～ ・正しい文章を作るには～ ○自身の学び方を自己調整力チェックシートで確認し、本時の学びを振り返るとともに、学習計画の修正を行う。	◇次時の学習に向け、本時に行っていない作業の友達の気付きに注目して聞くようにさせていく。 ◇レギュレイトシートの振り返りを行っていく中で、学習がうまくいっているかどうか確認させていく。

○ B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業
・自身の学び方や学習内容を振り返り、振り返りを基に学びを調整し、次時の学習目標・学習計画の設定

○ A 子どもたちが「自分たちで学び取る」授業
・活動を通して発見した見方・考え方の共有と活用

5 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る授業改善のポイント

【「自己調整力育成」に焦点を当てた児童を中心とした授業づくりの工夫】

A子どもたちが「自分たちで学び取る」授業に向けて

○レギュレイトフォームで自ら学習目標・学ぶ方法や手順の計画

本単元を通し、右図のようなワークシートを活用を行った。シート上部には、レギュレイトフォームという学習計画表を用意し、児童にリーフレットの下書き作成の4時間の学習目標及び学習計画づくりを行わせていった。

学習計画を立てる際には、学習活動だけではなく、どのような環境で学習を進めていくか(個別かグループか)、どのような方法・教材で学習活動を進めていくか(ICTを活用するか紙を活用するか等)も計画させていった。

計画については、学習を進めていく中で振り返りを基にしながら、修正を図っていくこととした。

○活動を通して発見した見方・考え方の共有と活用

リーフレットの下書きづくりを行う4時間は、その時間の最後に、学習活動を通して得た見方・考え方を交流する場面を設けていった。

下書きづくりの4時間は、児童がそれぞれ学習計画に沿って別々の作業を行っている。同じ作業をしている児童は、その中で協働的な学びが生まれるが、別な作業をしている児童同士を協働させることは難しい。

そこで、このような交流の時間を授業の終盤に設定し、次時に実際に自分が作業を行う際の参考として児童が互いに学び合えるようにしていった。

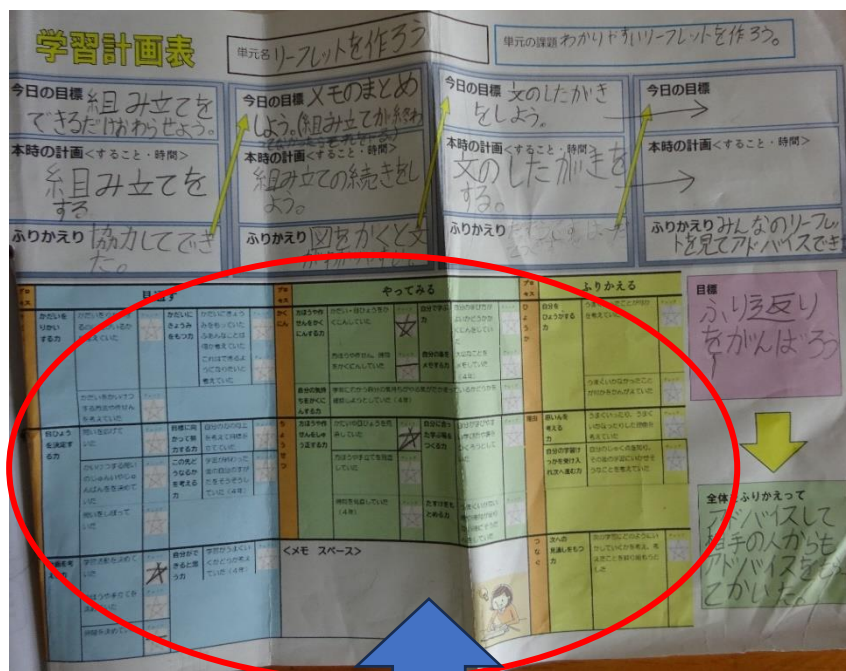
B子どもの「興味・関心」や「問い」を大切にした授業づくりに向けて

○自身の学び方や学習内容を振り返り、振り返りを基に学びを調整し、次時の学習目標・学習計画の設定

本単元では「分かりやすいリーフレットを書こう」という単元を貫く課題を児童とともに共有していくところから始めていった。次に、本単元の課題解決に向けて、自身がどのような学び方を貫いて頑張っていくか、自己調整力チェックシートの項目の中から選択し、目標を立てていった。

リーフレットの下書きの4時間の学習では、自己調整力チェックリスト・振り返りを活用しながら、児童にとって必要感のある目標を児童自身が立てていくようにしていった。下記のような手順で振り返り及び目標立

③課題解決に向けて、残り時間を意識しながら学習活動が順調に進んでいるかを考えるとともに、本時の振り返りを活用しながら次時の学習目標や学習計画に修正の必要性がないかを検討し、次の時間のゴールの明確化を図っていく。



※セルフラーニングチェックリストには、その学年で育成を図りたい自己調整力にかかわる項目が掲載されている。低学年・中学年・高学年の3種類のカードがあり、系統的に自己調整力の育成を図っていきるようにしている。

[illegible]

本単元ではまず、児童の高めたい資質・能力及び、そのためのゴールの言語活動を次のように定め、児童の見取りの軸がブレないようにしていった。

- ・知識/技能：読み手に伝わりやすいような文章表現を考え、適切に句読点を使いながら正しい文章をつくること。
- ・思判表：読み手に伝わりやすいように内容のまとまりで段落をつくったり、「始め、中、終わり」を意識した文章をつくったりすること。
- ・主体的態度：自分が読み手に伝えたいことを明確にすること。リーフレットの特徴を理解しながら、どのように表すとより伝わるのかを考えて、構成を組み立てること。

- ・ゴミ処理場の社会科見学で学習したことについて、リーフレットを作成すること。

その上で、ルーブリック評価を用いて児童に目指すゴールの姿の共有を図っていった。また、個々の実態に応じて上の評価を目指すよう働きかけることにより、一人一人のペースで見通しをもちながら学びを進めていくことができ、児童の安心感や主体的な学びへとつながっていく。

児童に示す、評価段階とポイント

パパパ・パーフェクト(AA)	グ・グレート(A)	グッド(B)	レベルアップ(C)
1 読み手がわかりやすい言葉や文を使ったり、難しい言葉の説明をしている。 2 句読点を使いながら正しい文章をつくっている。 3 文章のまとまりで段落を作ったり「始め、中・終わり」を意識した文章をつくったりしている。 4 読み手に伝えたいことがよく伝わるよう、絵や図、表と文章を組み合わせで作成している。	1 読み手がわかりやすい言葉や文を使っている。 2 句読点を使いながら正しい文章をつくっている。 3 文章のまとまりで段落をつくったり「始め、中・終わり」を意識した文章をつくったりしている。 4 絵や図、表と文章を組み合わせで作成している。	1 句読点を使いながら正しい文章をつくっている。 2 伝えたいことについて、文章のまとまりをつくっている。 3 絵や図、表を使いながら作成している。	1 見学でわかったことを書いている。 2 自分が伝えたいことが書いてある。 3 絵や図、表を使いながら作成している。

○わかりやすい言葉や文とは・・・

・○○の図は、 ・○○によると、 ・～そうです。 ・○○から～わかります。 ・例えば、

その他の工夫

○ファシリテーターとしての教師の役割

教師の役割は、児童の学習目標・学習計画を確認し、その中で一緒に課題解決に向かう同士であり、スムーズに課題解決に向かっていけるよう、フィードバックを与えてあげたり児童同士の考えをつないであげたりすることを主として行った。また、本単元は国語科の学習であるが、学習活動の中で社会科の教材とつないでいくなど、児童と教材を出会わせる役目も行った。

さらに、本単元では ICT として Canva の活用を行った。児童のシートをクラウド上で閲覧していくことができるので、活動の様子を見ながらフィードバックを与えていたり、他の児童とつないでいたりということを行った。



参考文献

木村明憲 自己調整学習 主体的な学習者を育てる方法と実践 明治図書出版

木村明憲 自己調整学習チェックリスト リストを用いた授業実践30 さくら社出版

樺山敏郎 個別最適な学び・協働的な学びを実現する「学びの文脈」 学級・授業・学校づくりの実践プラン